

令和8年度 年間指導計画

A科：生物科学科 B科：環境科学科 C科：食農科学科

教科名	情報	科目名	情報Ⅰ	単位数	2	履修学年・クラス	1年ABC
担当者		使用教材	情報Ⅰ Flex・学習ノート・事例でまなぶプログラミングの基礎Scratch・VBA編・自主教材				
学習目標	○情報と情報技術及びこれらを活用して、問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得する。						
	○様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用する力を養う。						
	○情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。						
学習方法	○効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得する。						
	○様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。						
	○情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。						
学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨				
	知	知識・技能（技術）	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。☑				
	思	思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。				
	態	主体的に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。				
※定期考査については、上記の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。							

学期	単元（題材）	学習内容	評価の観点			単元（題材）の評価規準	評価方法
			知	思	態		
前期中間	第1章 情報社会と問題解決	1節 ○情報とメディア ○情報化の進展と情報技術 ○情報社会で求められる能力 3・4節 ○情報の管理と保護（著作権まで含む）	○	○	○	【知】情報の特徴（残存性、複製性、伝播性）について意味を理解している。 ワープロ検定3級合格レベルの文書作成ができる。 【思】データと情報の違いについて説明することができ、個人情報の漏洩の例について説明できる。 【態】情報の定義や法規による安全対策の重要性について興味、関心を持っている。	・授業観察 ・小テスト ・課題提出 ・学習ノート提出 ・定期考査なし
	第2章 コミュニケーションと情報デザイン	1節 ○メディアとコミュニケーション ○ワープロ検定に向けたタイピング練習	○	○	○		
前期末	第2章 コミュニケーションと情報デザイン	2節 ○デジタル表現の特徴	○	○	○	【知】アナログとデジタルの特徴を理解している。ワープロ検定3級合格レベルの文書作成ができる。 【思】アナログとデジタルの違いを使い分けができる。 【態】デジタル化に興味・関心を持ち、実習に意欲的に取り組んでいる。 【知】情報機器の仕組みや構成要素を理解している。ワープロ検定3級合格レベルの文字入力と文書作成ができる。 【思】目的や状況に応じ、情報機器の構成要素を選択、考察している。 【態】情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。	・授業観察 ・小テスト ・課題提出 ・学習ノート提出 ・定期考査
	第3章 コンピュータと情報機器	1節 ○さまざまな情報機器 ○コンピュータの構成 ○ソフトウェアの仕組み ○ワープロ検定に向けた学習（速度・文書）	○	○	○		
後期中間	第5章 ネットワークと情報システム	1節 ○さまざまな情報システム 2節 ○ネットワークの構成とインターネットの仕組み 3節 ○情報セキュリティ対策 ○ワープロ検定に向けた学習（速度・文書）	○	○	○	【知】生活の中で利用されているさまざまな情報システム、情報ネットワークについて理解している。ワープロ検定3級合格レベルの文書作成ができる。 【思】目的や状況に応じ、情報システムやネットワーク、情報セキュリティについて説明ができる。 【態】情報システムに興味・関心を持ち、実習に意欲的に取り組んでいる。	・授業観察 ・小テスト ・課題提出 ・学習ノート提出 ・定期考査なし
後期末	第1章 情報社会と問題解決	2節 ○問題解決の手順 ○情報の収集と分析 ○解決案の決定と実施・評価	○	○	○	【知】問題や問題解決の意味、問題解決の基本的な手順について理解している。 【思】情報収集のための手法から適切な方法を選択し、幅広い観点から情報を収集することができる。 【態】関心・意欲をもって、解決案の実施と評価などを行い、主体的に問題解決に取り組んでいる。 【知】アルゴリズムの基本とプログラムの意味を理解している。 【思】アルゴリズムを文章やフローチャートなどの図で表現することができる。 【態】基本構造のプログラムに意欲的に取り組んでいる。	・授業観察 ・小テスト ・課題提出 ・学習ノート提出 ・定期考査
	第4章 プログラミングとモデル化	1節 ○アルゴリズムの表し方とプログラムへ 2節 ○プログラムの基本 ○プログラミングの方法 ○プログラミングの実践（Scratch）	○	○	○		